

自然のかくし絵

矢島 稔文

いずみ会では、説明文も物語文も読みの指導として同じ指導過程で行います。文章を読むということの子供の側に立てば、読んで楽しむということですから。そこを基本にして授業を展開します。国語教育の専門家は、文種によって読み方を変えることが子供の学力をつける方法だと話しています。一理ある提案です。

いずみ会では、皆読・皆書・皆話・皆綴をめざして授業を組み立てます。その四つの技能を育てる中心になっているのが皆考だと考えています。別な言葉で言うくと、読む・書く・聞く・話す活動を四枚の羽根に例え、その羽根を結び連携して回す芯になるのが、考えるということだとしています。

授業の流れを次の七段階にしています。

- 第一次指導 (概観の指導) 原則一時間
 - 一よむ 全文を音読する。(児童の分担任読み)
 - 二とく 読後感を整理するために話し合う。
 - 三よむ 指示に従い黙読し、その語句を探す。
 - 四かく 三よむで探した語句を視写する。
 - 五よむ 板書された語句を全員で音読する。
 - 六とく 全体を整理するために話し合う。
 - 七よむ 学習を振り返り全員で音読する。
- 第二次・第三次指導についてはHP参照

さて、「自然のかくし絵」について考えて

みます。説明的文章ですが、これを科学読み物と考えます。小学校の教科書に載っている説明的文章は、多くは、それぞれの魅力的な世界を知らせる読み物だと考えます。(中には、署名のない文章もありますが、そういう文章と比べてみるとその違いが分かります。)

今回は、昆虫学者で多摩動物園昆虫館の飼育係も務めた矢島稔さんが「昆虫」に魅せられた気持ち伝わります。また、ラジオでの「子供の電話相談」に長年かかわってきた筆者の子供への思いも伝わってきます。いずみ会では、そんな筆者の思いをも読み取らせることも重要だと考えて実践しています。

そこで、まず、概観の指導をします。難しい語句や漢字の読み方などの指導は、第三次指導で行います。ここが、他の指導法と大きく違うところです。それは、今持っている力で挑戦させるところに教育的意義があると考えるからです。また、おおよそ、どんな話かということが踏まえたうえで詳しく読むということが、深い理会につながると考えるからです。(理解と理会を辞書に当たって！)

第一次指導を始める前に担任のすることは、文章を区画することです。意味段落に分けることに似ていますが、指導方針に合わせて行います。その区画に従って、「一よむ」

の割り振りをします。私は、席の後ろから横に順に割り振り、次の列で折り返します。(最初に読む子は、後ろから見られることに不安を感じるものです。担任も、全体の児童と読み手の状態が一望できるので、落ち着いて新しい教材にはいることができます。)事前に割り振りをしておいて、家庭で下読みできるようにしておくのがよいでしょう。その時に、読んできなさいではなく、当日、クラス全員に「読んでみたか」と問い、挙手させます。強制でなく自発を促す狙いがありますが、低学年なら音読カードなどで習慣化を図ることも工夫の一つですが……。

次に、指導案を作るときに考える手がかりを書いてみます。

① 題目(自然のかくし絵)について考えます。この題は、別な言葉に置き換えられます。本文から探すと、虫の保護色(ほご色)の話だと、私は考えました。

さて、話の順序が後先になりましたが、「自然のかくし絵」という題には、矢島さんの思いが詰まっています。読み手に、おやつという気持ちを起こさせます。そこに矢島さんの、この話の世界に子供たちを引き入れたいとの願いを、私は読み取ります。そこで、この題を「自然」「かくす」「絵」に分解してみました。

これは「絵」の話です。絵はどのように描くかを確かめることが一番目の問いになります。すると、形と色で表現することが出てくるでしょう。

そこで、この絵は、何の絵なのだろうか、第二問になります。すると、虫の絵と答えてくれるでしょう。黒板に枠を描きその中に虫を描いて見せます。

それから、虫の周りには、何を描きますかと、三問目の問いが出てきます。木と草とかでてくるでしょうから、題の中から選ぶとすると何になりますか、と補助質問をします。「自然」という答えが自然に出てきます。

第四問は、周り(背景)と虫の色が同じだと虫はどうなりますか、となります。子どもは、虫は見えにくくなりますと、答えてくれるでしょう。それを「かくし絵」と、矢島さんは面白い題にしました。

かくし絵になることを、別な言葉で何と書いてありましたか、さらに問うと…。そうですね、「ほご色」です。この話は、虫の保護色の話を書いてあるのです。

このように題を考えると、この文章の輪郭がはっきりしてきます。これを「題目をほぐす」といっています。

② 次に、区画から書き出す語句を考えます。

最初に、たてた区画案の修正も視野に入れながら考えてみます。

ここで、区画について注意点を書いてみます。説明的な文章では、形式段落を区画にするとうい場合が多いようです。でも、書き出す言葉との関係やそれを使って全体を考える六とくとの関連を考えると、区画数を七、八にするのがよいでしょう。十区画を超えると子どもにとつて全体を整理することが難しくなります。

「自然のかくし絵」は、形式段落が十二になります。そこで、「初め、中、まとめ」を考えると、形式段落で①③、④⑩、⑫となります。次に、中を考えると、④⑦⑧⑩の二つのまとまりになっています。これで、大きく四つの区画になりますが、具体的などころをしっかりと意識させるために、接続詞等を意識して「たとえば」「また」「さらに」「このほかに」「では」「ところが」を手がかりにして区画を絞っていきます。その時に、各区画から書き出す語句を探す指示を考えて、最終的に区画を決めます。

私は、語句を探す指示(手引き)を「各区画からカタカナで書いてある動物の名前を書き出さない」としました。その点を考慮して、区画は七つにしました。1は

- ①③、2は④、3は⑤、4は⑥⑦、5は⑧⑩、6は⑪、7は⑫としました。
- ③ ここまで、整理できたところで指導過程(七変化の教式)に沿って指導案(問いの流れと板書事項)を作っていきます。

第一次指導 (一時間)

〈区画〉七区画 ①③、④、⑤、⑥⑦、⑧⑩、⑪、⑫

一 よむ(音読 七名 席順に)

二 とく(読後感の整理の話し合い)

○ 題目(題名 自然のかくし絵 板書)

① 自然のかくし絵という話ですが、「絵」を描くときにすることが二つあるが…。

② 形を描き、色を塗ります。(形・色 板書)

③ (枠を板書) 何の絵を描きますか。

④ (虫の略画板書 虫の周りに何を描く…。

⑤ (草・木と板書) 題の中の言葉でいうと何になりますか。

⑥ 次に色を塗りますが、虫の色と周りの自然の色は、どういう感じになるのかな…。

◎ ひびき(強く感じたところ)

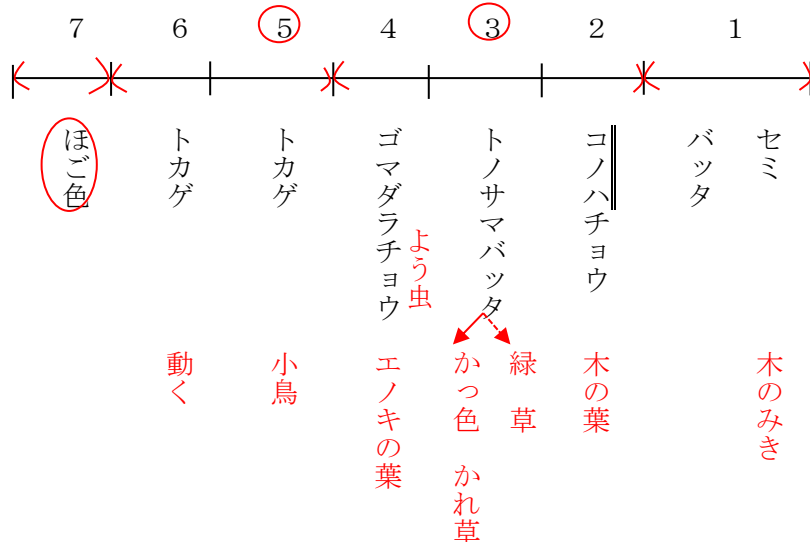
⑦ 同じような色になると、虫がどうなってしまうのかな。

⑧ 「自然のかくし絵」と矢島さんは面白い題にしましたが、この話は、虫の何の話なの。別な言葉で書いてあったね。

⑨ 虫の保護色の話ですね。(7の下に来る

- ようにほご色と板書)色だけでなくで形も周りに似せている写真があつたでしょう。開けてご覧なさい。P 39何に見える…。それが名前になっているの。(木の葉) 面白いね。もう一枚、あるよ。(本文でなくこの話の表紙 p 37)何に見える。(ナナフシ)
- ⑩ こうして、虫は身を守るといふ話です。
- **手引き** (全体把握の語句を一間で指示する) 指示 カタカナで書いてある動物の名前を書き出しなさい。(1〜6まで)
- 三 **よむ** (黙読しながらカタカナ言葉を探す) ・ 最初は皆でやりましょう。(板書)
1 に出てくるカタカナの動物 (虫) は。
(1の下に セミ バッタ 板書事項参照)
- 四 **かく** (三よむで見つけた語を視写する)
2 は (コノハチヨウ)
3 は (トノサマバッタ)
4 ゴマダラチョウ (各自で探して書く)
5 トカゲ
6 トカゲ
7 ほご色 (二とく⑨に対応して)
- 五 **よむ** (全員で指黙読後、指音読一〜二回)
- 六 **とく** (板書を関連付けて全体をまとめる)
- **事実** (関連付け) ・ **区分** (区画を整理する)
- ① 蝶が二つ出ているが、成虫(蝶)になっ
ていない幼虫のことが書いてあるのは…。
② ゴマダラチョウの幼虫は、何を餌にして
いるのかな。(エノキの葉 板書) 補説(蝶
の幼虫の食性:アゲハは柑橘類:関心を広げる)
③ 秋になるとエノキの葉は黄色くかわり
ます。すると、ゴマダラチョウの幼虫の色
もどうなるの。(育つ時期の差に合わせ)
④ トノサマバッタには、何色のバッタがい
るの。(緑:緑の草 かつ色:かれ草 板書)
⑤ コノハチヨウのどこが、枯葉の模様にな
っていますか。(かれ葉:うら 板書)
⑥ セミは何の色に合わせているの。(幹)
⑦ こういう虫を餌にしているは何。(トカ
ゲの下に 小鳥)
⑧ トカゲも小鳥も一生懸命に餌を探しま
す。見つけやすいのは。(動く)
⑨ 虫もじっと休んでいる時に身を守るよ
うになっているのね。それを何というの。
⑩ (区分) 虫のこと、それをねらう動物こ
とは、どこ。(2〜4、5・6) 1はこの
話の始まり、7はこの話のまとめです。
- ◎ **山** (詳しく読む場所、山場の決定)
- ⑪ この話の面白いところを二か所勉強し
ます。どこを詳しく読みたいですか。
(2〜4から一つ希望で、67から一つ)
- **余韻** (虫は調べると面白いなあ)
- 七 **よむ** (板書 指音読)

〔板書事項〕



* 私なら3と5を扱います。やる所に赤丸をつけます。子供の希望できめてもよいです。